

仕事場での伝道:いかに求めている人を釣りあげるか

ルース・E・シエメンス

翻訳:ゴスペルハウス翻訳部

人にイエスさまのことを語ることは、わたしの喜びです!けれども、いつでもそうだったわけではありません。神さまがパウロやペテロを導いたように、わたしをも伝道することの喜びへと解放してくださったのです。ほとんどの宣教師やテント・メーカーは、どのように伝道してよいかわからないために、あまり伝道をすることができないのです。ですから、このことについて知る事はとても重要なのです。

わたし自身も、前まではどのように未信者の方と会話をはじめたらよいのか葛藤していました。どのように接近して、神さまについてどんな話をして、どのようにイエスさまを受け入れる決心を促すかの構想が出来上がったときには、相手の方が当惑してしまうほど緊張してしまっていました。それでも、数週間後には、また伝道に挑戦していたのです。わずかでしたが、わたしが伝道した人たちが神さまに出会うことができたからです。わたしの問題点は、伝道手段が"狩る"ことにありました。わたしは、"刈り取り"をしているつもりだったのです。わたしの伝道手段が"狩る"ことから"釣る"ことに変わったとき、伝道することが喜びになりました。

ほとんどのクリスチャンは、狩りをあまり好まないのです、滅多に伝道しないのです。一番大きな障害物といえば、どのように会話を始めるか、ということにあります。私たちは、人のプライバシーに入りこみ、相手が願ってもいない宗教的な情報で一撃を与えることにいい気はしないのです。ですから、狩りだけを伝道の方法としているクリスチャンは、あまり伝道することはありません。

"釣る"伝道とは、選択的なものです。あなたの魅力あるライフスタイルと神さまについての適切なコメントが神さまを求める人たちを引き寄せるのです。未信者に無差別に福音を語るかわりに、彼らの質問に答えるのです。求めている人たちとは、聖霊の働きによって神さまに飢え渴いている人たちです。そのような福音を聞きたがっている人たちに語るのには、喜び以外の何物でもないでしょう?

パウロは、コロサイ 4:5-6 でクリスチャンの人間関係(特に仕事場での)についてこのように言っています。

"外部の人に対しては賢明にふるまい(ライフスタイル)、機会を十分に生かして用いなさい(機会)。あなたがたのことばが、いつも親切で、塩味のきいたものであるようにしなさい。そうすれば、ひとりひとりに対する答えがわかります。"

ですから、わたしたちの言葉は、渴きを生じさせ、質問を引き起こすようなものであるべきです。ペテロは激しい迫害にあっていたクリスチャンになったばかりの人たちにこのように言っています。(1ペテロ 3: 14-16)

"彼ら(迫害する者たち)脅かしを恐れたり、それによって心を動揺させたりしてはいけません。むしろ、心の中でキリストを主してあがめなさい(キリストの臨在と力を礼拝心を持って意識する)。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしておきなさい。ただし、優しく、慎み恐れて、また、正しい良心をもって弁明しなさい。そうすれば、キリストにある正しい生き方(ライフスタイル)をののしる人たちが、あなたがたをそしたことで恥し入るでしょう"

パウロもペテロも伝道を求めている人たちの質問に答えることに形を変えています。わたしたちは福音を押しつけたり、受身でなにもしなかつたりはしません。また、作為的に質問を引き起こさせるのではなく、聖なる徳の高い生活に焦点を当てるべきです。(以下のパウロの細かい教えも参考にしてください。)この"釣り"伝道は、学校や職場で、毎日同じ人たちに会うクリスチャンに最適な伝道手段です。また、自分をサポートしながら、キリスト教に敵対する国々で独立伝道するテント・メーカーや、まわりにいる同国人、外国人に福音を語ろうとしているその他のクリスチャンにも同じ事が言えます。

求めている人を釣り上げる

わたしは、テント・メーカーの働きの最中に、この"釣り"伝道の概念に出くわしたのです。それから、パウロとペテロの伝道手段を聖書の中に発見したのです!

1954年から、わたしはリマ、ペルー、ブラジルの公立、私立の学校、インターナショナル・スクールなどで教師や学校事務をして自分をサポートしてきました。ある日、先生の一人がわたしのオフィスに来て、"なくしたお金が見つかってラッキーだったわね。"と言いました。わたしは、同意しかけましたが、仕事の手を休めることなく、"ラッキーではないんですよ。神さまに、必死でお祈りしたら、神さまが見つかるのを手伝ってくれたんです。"それから、わたしは話題を変え、彼女はわたしの答えに驚きながらオフィスを出て行きました。わたしが、そのことについて、あまり気に留めてなかったことで、彼女は戻ってきてこう聞きました。"あなたは、本当に神さまがこんな小さなことでさえも助けてくださると信じて"

いるわけじゃないでしょ?"それで、わたしは先週、神さまが答えてくださった祈りについてお話しました。そして、また話題を変えました。

もちろん、わたしは始めから彼女に福音について話をしたかったのですが、そうすることによって彼女がわたしを避けたり、わたしが彼女をクリスチャンに仕立て上げるのではないかと怪しんだりしたかもしれません。彼女は次の日、わたしにさらに質問をもってやってきました。なぜなら、彼女が主導権を握っていると考えたからです。わたしは、彼女に会話をリードさせ、何について話すかも彼女の心の状態に合わせてみました。どんな質問をするかによって、彼女がどんなことに心の準備ができているのかを知ることができました。いつでも、わたしが言いたかったことを答えさせる質問を喚起させるような言動をしている必要があるのです!自分の周りには無関心な人たちや反抗的な人たちの中にもいるかもしれない、求めている人を釣り上げるべきなのです。

"釣り"伝道手段によって、クリスチャンがもっと多く、もっと喜びをもって、そしてもっと実りの多い伝道するようになるでしょう。

1. 説明と例

"釣り"をするクリスチャンは、自分のライフスタイルを周りの人に観察される環境である、職場や学校で神を敬う生活を目指します。何気なく、その時と場にあった神さまについてのコメントを自然に会話の中に織り込んでゆくことを学びます。この、言葉や行動による餌によって、霊的に飢えている人が質問してくるようになります。それから、クリスチャンがその求めている人からの質問に答え、友好関係を築き、そしてその人がイエス・キリストに信頼するように導いてゆくのです。

狩人クリスチャンは、釣り人クリスチャンよりも攻撃的ですが、暗闇の方へ進んでいってしまいがちです。矢を放って獲物をしとめるか、外すかというやり方が、彼らを求める人に接近させますが、無関心な人や敵対する人たちに接近している場合が多いのです。彼らは、相手のことがよくわからないため、どの人にもまったく同じやり方で伝道してしまうのです。もし、彼らが言うべきことをすべて順序立てて暗記していたならば、彼らの話は作り物のようで、自発性に欠けたものになってしまうでしょう。多くの狩人クリスチャンは、セールスをモデルにした伝道手段を用いています。彼らのメッセージは一方的で、精神的な"パッケージ"を相手に買いたいと思わせます。彼らは、相手と関わりを持たずに、商品を売ってくるのです。彼らの意図は、説教を終わらせて、相手にキリストを受け入れる決心を促すことにあるのです。彼らは、相手の人生の深淵を変えようとしていながら、相手の人格や状態をなおざりにしているのです。

確かに、狩人クリスチャンは人に決心をさせますが、相手は自分でした決心の本当の意味を理解してはいない場合が多く、新しく生まれ変わったクリスチャン、とまではいかないのです。型にはまりがちな伝道に相手は、"別に害はないだろう"くらいにしか思ってくれないのです。これによって、たくさんの人たちを間違った、または混乱した霊的状态に留めてしまうのです。何人かの"犠牲者"たちは、神さまを離れてしまい、また他に怒りを覚えている人たちさえいます。また、決心をしても何も変化の無かった人たちは、クリスチャンに騙されたと思っています。

狩人クリスチャンは種をまかず、水をやらずに収穫を刈り取ろうとしているのです!確かに、決心をする心の準備ができている人もいるかもしれませんが、けれども、その人はすでに誰かによって種を蒔かれたからですが、今の世の中では、あまりそのような人はいないのです。

イエスさまが12弟子を遣わした時、ユダヤ人だけに語りなさいと指示しました。彼らは、"色づいて、刈り入れるばかり"(マタイ 9:37, 38 ヨハネ 4:35-38)になっていたのをイエスさまはご存知だったからです。12弟子を刈り入れのために遣わしたのです。ガリラヤ地方のあちこちに住んでいた異邦人たちのほうが福音を必要としていたのですが、彼らはまだ刈り入れ時ではなかった上、弟子たちは異邦人に対する差別があり、民族を越えた伝道は彼らにはまだ無理だったのです。

パウロがローマ帝国へ伝道旅行に出たときには、それぞれの異邦人の町々で、種を蒔き、水をやることから始めなければなりませんでした。彼は、神の言葉を語り、神の業をなすことを、クリスチャンが周りにまったくいないところではじめなくてはならなかったのです。パウロは、いつでも、会堂に来ているユダヤ人、神をおそれる異邦人の中で求める人を釣ることから始めていました。けれども現在、わたしたちがキリスト教に敵対する国で、見ず知らずの人に福音を語ることは、わたしたちと相手の両方に、投獄、失業、国外追放の危険が伴います。

イエスさまは、周囲が敵対している中、働かれ、釣り伝道をなさいました。彼は主に、彼の言動によって引き起こされる人々の質問に答えました。ヨハネの4章で、イエスさまはサマリア人の女に飲み水を求めるという、他のユダヤ人の男性なら決してしないことをして、彼女を驚かせています。彼は、サマリア人の女の過去の男性関係と彼女の深い霊的な必要を知り、彼女の必要にあった質問をさせたのです。けれども、ヨハネの3章では、イエスさまの釣り餌は、奇跡でした。ニコデモが、夜にイエスさまを訪ねてくるのですが、イエスさまの"人は新しく生まれなければならない"という頭をひねるような言葉が、このユダヤ人の指導者であったニコデモを彼の必要にあった質問へと導きます。イエスさまも釣り伝道をされたのです!

イエスさまは、伝道を人を釣ることだと言われました(マタイ4:19)。ですから、"釣り伝道"は理にかなっているのです。ですから、失われた人たちの海が存在し、わたしたちは周り(家族、近所、職場、学校など)で求めている人たちを釣り上げるべきです。彼らは、神さまがそれぞれわたしたちにまかされている人たちなのです。それらを職場伝道、近所伝道、キャンパス伝道などと呼びかえてもよいでしょう。それらはすべて、テント・メイキングなのです。手に職を持っている人が、狩り伝道をするには危険なキリスト教に敵対する国々へ出て行き、文化を越えて伝道するのに適している方法なのです。

ですから、狩り伝道から、釣り伝道への切り替えは、語る人と聞く人の両方を解放してくれるのです。もちろん、釣り餌は、場合によって変わってきます。テキサス空港で乗り継ぎ待ちをしている間に、何百もの旅客と搭乗待合室で話しをすることは可能ですが、どの人に話し掛けるべきでしょうか?椅子に腰を下ろすとき、まず、親しげに周りの人に声を掛けました。このことによって、一人の女性がわたしの仕事について聞いてきました。わたしが、回避的な返事をしていたら、そこで会話が終わっていたかもしれません。わたしは、"クリスチャンが周りにいる心に傷を持っている人たちを助けるために、彼らが海外で仕事を見つけるお手伝いをしている者です。"と答えました。その女性は、わたしの手を取り、"あなたがここにいてくださって、とてもうれしいわ。わたしは、心にある傷を抱えているのです"と言い、話はじめました。彼女は夫を最近亡くしたばかりだったのです。搭乗案内のアナウンスがあったとき、残念思いましたが、実はわたしたちは同じ飛行機に乗ることに気がついたのです。彼女は、12Aの席で、わたしはその隣の12Bの席だったのです!神さまは、あらかじめ、わたしたちの出会いを計画されていたのです。飛行機が離陸するときには、彼女は3回十字を切っていましたので、彼女がカトリック教徒で、飛行機が苦手なことがわかりました。とても意義のある会話の後に、彼女にヨハネの福音書を差し上げました。(福音書や、伝道的の小冊子はあなたが語りきれなかったことを補充してくれます。あなたの住所を書いておけば、その人との文通につながるかもしれません。)

また、別の飛行機での話ですが、とあるビジネスマンの方と最近のニュースについておしゃべりしていると、スチュワートさんが食事を運んできてくれました。わたしは感じたままに、"おなかすいた。これはおいそうですね。神さま、おいそうな食べ物を感謝します。それで、あなたが言っていたことだけど..."と会話を続けていました。話題をもとに事によって、彼に自由意志を与えたのです。わたしはお祈りのために目を閉じませんでした。彼は何の反応も示さなかったので、わたしは彼がわたしの食事の感謝の祈りを聞かなかったものとしてしました。食事の後、わたしたちはそれぞれ本を読み始めました。30分後に、彼は読んでいた本を置いて、神さまについてのいろいろ質問しはじめたのです。彼が話を続けて、何について聞きたいのかを決断する時間が必要だったのです。彼が、い

つ話すかを選んだのです。もし、わたしが祈りの後に無理やり会話を続けていたら、彼は心を閉ざしてしまったかもしれません。

ですから、釣り餌はあなたが何気なくすることや慎重に"わたしは神さまのことを知っていますよ。そして、そのことについて、喜んでお話しますよ。"といった印象をあたえる言葉なのです。職場では、何日も相手の反応が無いかもしれません。けれども、彼らが問題に陥ったとき、誰に助けを求めるのかわかるはずですよ。

わたしが小学校で教えるためにブラジルのサオ・パウロに着いてからすぐの月曜日、近隣の高校の校長先生がその学校の教師の一人が終末に嵐のため海で溺れて亡くなったと知らせてきました。その高校の教師たちは、彼女のために生徒と親を集めて葬儀をしようと準備していました。合唱団は、賛美歌を練習しはじめました。けれども、高校教師たちの誰もが祈りをするのをためらっていました。校長は、"教師たちが言うには、あなたが祈りのし方を知っているそうなんですが…"と言うのです。一体全体、あまり知りあっていない彼らはどこでわたしが祈りすることを聞きつけたのでしょうか？わたしが昼食を食べる前に、お祈りしていることに気がついた人がいたのでしょうか？

こういう訳で、わたしは葬儀のとき、神さまが亡くなったかたの家族、友達を慰めてくださるように短くお祈りしました。そして、最後に"主よ、死後にいのちがあることを知りうることを感謝いたします。"と付け加えました。この祈りによって、教師、生徒たちがわたしのオフィスに質問を持ってやってくるようになりました。また、このことによってクリスチャンの高校生たちを釣り出し、彼らが友達に伝道することができるようになりました。わたしのアパートで聖書の学びを始めました。これにより、わたしのミニストリーを高校にまで広げることができたのです。それだけではなく、わたしのミニストリーを早めることにも繋がりました。このことによって、わたしの信仰は、小学校中の人に明らかになった上、高校との繋がりもできたからです。神さまは、この葬儀を用いてすばやく小学校、高校の全ての人、たくさんの上流階級のブラジル人の両親たちにわたしの信仰を明らかにしてくださったのです。それでも、わたしは人に宗教的な会話を押しつけず、彼らの質問に答えるだけに留めていました。

この連鎖的な物事は、わたしが人から観察されるような職場において、そっと餌を蒔き続けていたからです。もし、わたしが狩りをしていただければ、わたしの周りにいる人たちは心を閉ざしていたでしょう。釣り伝道の方が効果大なのです！

2 釣り伝道の良い点

①釣り伝道は楽しい♪

あなたの周りにいる人たちを見て、イエスさまのように考えることができるのです。"もし、あなたがわたしが与えようとしているものを知っていれば、あなたの方からそれを乞い願ったでしょう。"人があなたに質問してくるとき、あなたが福音を語るのに喜びを感じるはずです。彼らは福音を聞きたがっていて、あなたは福音を語りたがっているからです!

彼らの最初の質問は、大抵遠まわしなのですが、マルタは違っていました。わたしがリマで公立の学校で教えにきたばかりの頃、わたしの歓迎会でこのペルー人の教師に初めて会いました。少しおしゃべりをした後、彼女は"わたしに聖書について教えてくださいませんか?"といきなり聞いてきたのには驚きました。わたしがどのようにして彼女にそのような質問をするように導いたのか皆目見当がつかなかったからです。けれども、彼女のパイロットだった夫が最近事故で亡くなり、この心に大きな傷を持った若い寡婦は、イエス・キリストに対して心を開いていたのです。わたしの家で何度かの学びを重ねた後、彼女はイエスさまを主として心にお迎えしたのです。そのときのわたしたちの喜びといったら!

その後、彼女は3人の息子たちを神さまについて学ぶように連れてきました。彼らの名前は、ミカエル、ラファエル、ガブリエルというのです!すぐに、彼らは天使でないことに気がつきましたが、彼らは神さまに愛されている普通のいたずら好きな少年たちだったのです。1年後、マルタな交通事故で亡くなりました。神さまが、その前にわたしと彼女を引き合わせてくださったことに感謝せずにはいられませんでした。

②釣り伝道はかんたん

誰にでも、釣り餌を置いておくことはできます。神さまを恐れる生活をし、神さまについて適切な言葉を時に応じて発すればいいのです。釣り餌は少しだけでいいのです。説教の構想を練らなくてもよいのです。ちいさな霊的な"爆弾"を何気なく自然に落とすことを学べばよいのです。物事を考える能力のある人は、すべての人が同意するかのような自信を持ってしゃべってください。けれども、教義的、説教的、また傲慢にならないよう、気を付けてください。餌をちよびっとだけかじって、逃げられてしまうからです。

③釣り伝道は優しい

失礼なことはせず、相手を怒らせたり、恥をかかせたり、無理に押しつけることもしません。(トニー・カムポロは、わたしたちの伝道によって、神さまに恥をかかせてはならないと

言っています。)UCバークレイの大学院生が、聖書をもってキャンパス内のカフェテリアにいたわたしを見かけて、プロテスタント宗教改革についてのレポートの手助けを求めてきました。わたしは、このダフエネに福音について語りたかったのですが、彼女は宗教には何の興味もないとつっぱねました。それで、わたしは、彼女の質問の流れにまかせました。個々の質問に答えるたびに、餌を小出しにし、さらに質問を待ちました。その結果、とても長く、中身の濃い会話が導かれ、終わりには、わたしの言いたかったこと全てを質問に対する答えの中で言うことができました。彼女に、大学の近くにある教会の牧師の名前を教えてから別れましたが、彼女はすぐ戻ってきて、"押しつけがましくしないでくれて、ありがとう。"と言ってくれたことによって、なぜ彼女がとても神経を尖らせていたのかがわかりました。きっと、彼女は狩り伝道の被害者だったのでしょう。狩りによって、人は頑なになってしまうのです。良い伝道は、いつだって優しいのです。

④釣り伝道とは忍耐である

求める人の質問のペース(心の準備)に合わせて会話を進めていくのです。わたしたちが急ぎすぎたり、たくさんのことを一度に言いすぎてしまったり、また相手のわからないキリスト教用語を使ったりすることによって、相手を混乱させてしまったり、遠のかせてしまったりするので気を付けてください。簡潔に話しをして、"次に進むかはあなた次第ですよ"と相手に思わせください。求める人には、わたしたちが言ったことを考える時間と、聖霊が働かれる時間が必要なのです。

ブラジルの医学生のアウアオ・オラボはわたしの家でもっていた聖書の学びに数ヶ月出席していましたが、ある晩に、"2000年前に死んだイエス・キリストを現在のわたしに何の関わりがあるんだ?"と聞いてきました。わたしは、

"あなたは、いままでの聖書の学びの時に何を聞いていたの?"と思いましたが、もう一度説明し始めました。彼の目には涙が浮かび、笑顔がひろがりました。彼は、やっと意味がわかったのです。その週に起こった悪いことが、この賢い、うぬぼれの強い、独善的な青年に神さまを求めさせていたのでした。この霊的な真実を理解するには時間がかかり、何度が繰り返して聞く必要がある場合が多いのです。

ですから、わたしたちは忍耐強くあるべきです。聖霊が求める人に対して忍耐強くあられ、わたしたちは聖霊を追い越して、進めることはできないからです。彼らのちょっとした反応にわたしたちの信仰を励まされ、彼らがちょっとでも神さまに近づいたことに大喜びしようではありませんか?わたしは、祈りの手帳で彼らの名前の後に小さな"t"("Thank you, Lord" ——主よ、感謝します——の頭文字)を付け、彼らが決心をしたら、大文字

の"T"を書き加えます。縦一列に並んだ"t"は、神さまが働かれている証拠です。ですから、わたしは忍耐を持って待つことにしています。

⑤釣りに伝道は個人を尊重することである。

人を物ではなく、人格をもっている人として接するのです。ですから、違う人には違うアプローチのし方をするのです。もし、餌を少しずつつかじられているなと感じたら、あなたがどのような人をおびき寄せたのかを見極めてください。その人の話に耳を傾け、あなたが理解しているか確かめながら聞いてください。わたしがブラジルの大学で人との交わりを始めたとき、カトリック哲学専攻の学生ラマンとマルクス経済学の教授のマリア、とは違う対応をしましたし、食品店のオーナーやわたしのお手伝いをしてくれるベンタ（なぜか、七色の虹が彼女を妊娠させるに違いないと思いこんで恐れている）にも、また違う対応をしました。みんな違う指紋をもっているように、人格も異なるのです。

⑥釣りに伝道は、何を語るべきかを教えてくれる

相手がきいていないようなことに関して答える必要はないのです。あなたの答えは、きっとあなたの状況にそったものであることが多いはずです。求める人たちの質問は、（福音についてすでに理解していること、思い違い、感じている必要、彼らの信仰の妨げになっているものなど）彼らの霊的な歴史を物語っています。ですから、彼らの質問に耳を傾けてください。聖霊が彼らにしていることに付け足していくのです。彼らの質問を恐れなくてください。

⑦釣りに伝道は、何について祈るべきかを教えてくれる

あなたの努力は、あなたの祈りなしでは、実を結ぶことはありません。狩人クリスチャンは、おおまかに祈ることしか出来ませんが、釣り人クリスチャンは、こと細かに祈ることが出来ます。例えば、ルーチョが神さまは厳しい裁き主とされていて、彼が良い行いをいっばいすれば、それから逃れることが出来ると思っている心を変えてください、と祈ることが出来ます。また、彼の数学のデストのため、またガールフレンドやサッカーのゲームによって目がそれてしまわないように、この間の学びが彼の心に届きますように、と祈ることも出来ます。わたしたちの祈りは、神さまの御心を変えさせるものではなく、神さまがわたしたちにしたいと思っていらっしゃることを自由にさせることです。

⑧釣りに伝道は賢く、慎重である

無差別に伝道するのではなく、選んでするのです。あなたの光をすべての人に向けて輝かせてください。無関心な人や敵対する人が、求める人へと変わる場合もあるからです。

それだけでなく、彼らの質問に答えてください。彼らの質問の裏に隠れているものに注意を払うことも忘れないでください。求める人と話をするときは、周りに敵対する思いを持っている人を煽ることのように、彼らのそばで話をするのを避けてください。

⑨釣り伝道は多芸多才

餌にちっとも食いついてくれないときは、違う餌をまいてみてください。クリスチャンは、他の人たちと共通点を持つためにいろんな分野の物事に興味を持つべきです。文化的イベント、ビジネス、スポーツ、文学、芸術、音楽、TV番組などについてある程度知っていたほうが良いでしょう。

聖書も多彩に、人が主に反応することを手助けするような、いろんなたとえが載っています。例えば、神さまの救い、神さまとの出会い、信仰を持つこと、主を受け入れること、新しく生まれ変わること、などです。彼らは、神さまから離れてしまったけど、和解することができます。罪に定められていながら、放免されることができます。不従順な子供が愛なる父に赦しを乞うことができます。壊れてしまった心だって、神さまが直すことができます。罪の奴隷であったとしても、贖い主により、買戻しをされ、自由にされることがあります。反抗する者であったとしても、変えられて王の王に無条件降伏するように変えられることができます。求める人の質問にあった例えと聖書の箇所を答えの中に織り交ぜると良いでしょう。

混んでいたけれども、静かだったマニラにあるホテルのエレベーターで、身なりの整ったフィリピン人の男性がわたしの持っていた聖書に目を留め、わたしがイエス・キリストを良い牧者だと信じているうちの一人か、と尋ねてきたので、"ええ、そうです。あなたもですか?"と言うと、"いいえ、わたしではなく、わたしの兄弟がそうです。わたしは、自分の自由をあきらめたくはありませんから。"それで、わたしは彼のたとえを用いてこう聞きました。"羊飼いの杖のすぐそばにいる羊と、ライオンと狼のいる暗闇に一匹だけにいる羊のどちらが自由だと思いますか?"彼は、"まったく違う見解ですね?"(エレベーターの中にいた人たちも、皆聞いていました。)イエスさまが、どのようにわたしたちを本当に自由にしてくださる(ヨハネ 8:32)のかを話す時間はありませんでした。残念ながら、そのときわたしは"自由になるには"という小冊子を持ち合わせてはいませんでした。彼の兄弟の方が彼を救いに導くことを祈りました。

⑩釣り伝道は聖書の定義によって正しく動機付けられる

伝道とは、頭数をそろえ、スコアを付け、割り当てられた数をこなすことではありません。また、主へと人を勝ち取ることでもありません(たとえ、それが望ましい結果だとしても)。

伝道とは、喜んで、うやうやしく、機転をきかせて、聖書や経験によって自分が知っている範囲で"主の栄光を宣言"することです。伝道は、物語を語るようなものです。このために教会は、存在するのです(ペテロ 2:9、詩篇 96:3)。

まちがった伝道の定義によって、わたしは何年も足を引っ張られていました。わたしは、相手のキリストを主とする決心に繋がらない会話を始めることを恐れていました。失敗は赦されないと思っていたのです。けれども、この聖書の定義がわたしを種をまき、水をやることに解放してくれました。わたしが、神さまのことを話すとき、いつでも神さまは喜んでくださいます。というのは、わたしは前のように、求める人がやってくると、緊張のあまり固まってしまうということがなくなったからです。たとえ、相手になんの反応が無くても、わたしは喜んでいられるのです。神さまは、わたしの語った言葉によって、数日か数週間の後には他のクリスチャンが刈り取ることができる実を結ばせることができるからです。

⑩釣りは伝道は聖書的である

前述したように、パウロとペテロは伝道を求める人の質問に答えることだと言っています。コロサイの 4 章 5-6 節でパウロは神を敬い、人を裁かない、魅力ある生活を心がけ、寛大で機転のきいた、渴きを促すようなコメントによって、相手からわたしたちが答えたい内容を聞くような質問を引き出すようにしてくださいと言っています。パウロは、全ての人間関係について書いていますが、ここでは特に職場(彼の導いた人たちが日のほとんどもを過ごした場所。現代にも、同じ事が言えます。)での人間関係について書いています。

ペテロ 3 章 14-16 節でペテロは、新しい改宗者たちに、厳しい迫害の中にあっても、伝道することを励ましています。ペテロは、神さまが許されない限り、クリスチャンに触れることのできないような敵を恐れるなと付け足しています。彼らは、自分たちの中に主が居られ、彼らに勇気と語るべき言葉を与えてくれると知っていました。彼らのライフスタイルは、ののしる人たちがそしたことで恥じ入るほど、非難するところのないものでした。

ペテロによると、彼らが持っていた希望が未信者たちを惹きつけたとあります。他の人たちは、激しい迫害、財産没収、経済的差別にあっても、クリスチャンに喜びと平安、自信があることを不思議に思っていました。忙しさと不安とに追われている現代でも、未信者たちは、毎日の仕事、生活の不満の中で、クリスチャンに忍耐と平安、そして見えない未来に対する平安を与える希望とは何だろうと思っている事でしょう。

けれども、釣り伝道は誰か質問してくれなくては、始まらないのです。質問が来ないのには、3つ理由があります。

1)わずかな接触しか存在しない。クリスチャンが、未信者を避けてしまったり、クリスチャンだけが集まってお昼を食べたり、時を過ごしたりしている。2)クリスチャンが他の人とまったくかわらないため、求める人が気がつかない。3)求める人が、クリスチャンの徳の高い生活に関心していても、クリスチャンが神さまについて何も言わないので、神と関連付けて考えない。

餌を環境(職場、近所、学校など)に合わせて置くことが大事です。

⑫釣り伝道は伝道的な聖書の学びに繋がる

いくつかの質問を受けた後、たとえあなたが、また別の質問に答えられたとしても、"わたしは、この分野にとっても詳しいわけではないんです。わたし自身も、まだ学んでいるところなんです。もし、よかったら、イエスさまが言われたことを見てくださいか?"と言って、新約聖書(または、福音書の小冊子)を取り出して、適切な箇所を一緒に学んでみてください。あなたが質問をして、相手が聖書の中から答えを見つけさせてください。これらによって、また新しい質問が起こされてきます。次に、もっと長い箇所を学ぶ時間を設定すると良いでしょう。このような学びは、毎週何人かの求める人との学びへと繋がるでしょう(この学びを、聖書探求と呼ぶことをお勧めします。"伝道"という言葉を使うと、相手が構えてしまうからです)。

未信者と聖書探求の時を持つのは、何も新しいアイデアではありません。サウロの迫害によって追われ、サマリアとガザ地方を伝道した、社会福祉行政官のピルピのことを思い出してください。彼は、他国へ続く大通りを南に向かってヒッチハイクをし、エチオピアのカンダス女王の宦官の豪華な二輪馬車に乗せてもらいました。ピルピは、宦官がイザヤ書を音読していたので、求めている人だと知り、彼にイザヤ書 53 章を説明してくれるようにピルピに頼むように会話を導きました。このようにして、二人は聖書探求を始めました。ピルピは、宦官にイエスさまに信頼する手助けをし、彼に道端の池で洗礼を授けました。

他のどの方法よりも、この聖書探求を通してたくさんの方が神さまと出合っています。これは、忍耐をもって求める人のために、賢い決心をする下準備を整えてあげることです(マタイ 13 章でイエスさまは、実を結ばない地とは、理解に乏しい人のことであると言っておられます)。個人個人、準備ができたときに、真実を発見するのです。わたしたちは、福音を物語を通して学びます。物語は、いつでも真実を通す管としての役割を持ち、

また抽象的な教えや直線的な議論とは違い、思い、心、感情を繋げることができるのです。聖書の中で、福音書は主となる伝道的な物語です。ヨハネ 20:31 に"これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、またあなたがたが信じて、イエスの御名によつていのちを得るためである。"と書いてある通りです。

重要な点は、これらの物語はイエスさまについてであり、彼こそが伝道の近道です。イエスさまの行動、言葉、彼の友達、また彼の敵の証をよく読み取ってください。あなたが、イエスさまの謙遜さ(疲れ、飢え、渇き、眠たく、寂しく、そして悲しかった)を強調するなら、彼の神性がはっきりと浮かび上がってくるでしょう。いずれは、彼がうそつきか、狂っていたか、すべての主であったかのどれかを選択しなければいけなくなるところまでくるでしょう。けれども、まずは話の中で見られるイエスさまと他の登場人物との関係を通して間接的に求める人がイエスさまと交わるお手伝いをしましょう。彼らはなぜイエスさまが死んだのかもわからずに、イエスさまを愛している場合が多いのです! イエスさまは、実際地上におられた時と同じように、福音書の物語を通して、求める人を引きよせることができるのです。彼は、聖書の時代に実在したように、今も実在するからです!

この聖書探求は、普通の聖書の学びとは大分異なります。というのも、参加者のほとんどが、未信者であるべきだからです。彼らはクリスチャン側からの精神的なプレッシャーが無ければ、正直に、そして自発的に分かち合ってくれます。聖書の箇所の中で答えを見つけるという基本的なルールを強調することを忘れないでください。その御言葉の意味を見つけるのが目的であって、宗教的な議論を交わすことではないからです。これによって、議論を戦わせることや、参加者が誤った結論に行きついてしまうことを避けることができます。(彼らの意見も聞き、個人的に話をするといいでしょう。)

聖書探求は、求める人が神さまに少しずつ近づくたび、彼らと同じくらいうれしくなります。彼らのコメントや質問によって、いつ決心を促すべきかを見極めてください。このことによって、新しい伝道者を生み出すことになります。新しいクリスチャンは、あなたが彼らを導いたように、すぐに誰かを導くからです。スペインで、メリサは彼女の父と姉妹との聖書探求の学びのための質問を書き連ねた紙を持っていきました。

⑬釣り伝道は、フォローアップを促進する

というのは、聖書探求に繋がるからです。求める人たちが神さまに出会う手助けをするばかりでなく、彼らが教えられ、育てられる母胎をも提供されるからです。聖書探求を弟子訓練聖書研究へと発展させることも可能です。また、新しいクリスチャンの友たち招いて、新しい聖書探求を始めても良いでしょう。

⑭釣りに伝道は、教会開拓を促進する

聖書探求が弟子訓練聖書研究へどんどん変わってゆけば、家庭集会ができるほどになるでしょう。もし、テント・メーカーたちが、いくつかの弟子訓練聖書研究を連れてくれば、もっと大きな集会となるでしょう。

3. 釣りに伝道の背景

釣りに伝道は、家族、近所、職場、学校や、旅行などを通しての人との交わりの中で役に立ちます。まず、①パウロがどこで伝道したか、②現代の職場、学校、そして③敵対する環境について見てみましょう。

① パウロの伝道の背景

賢いパウロは、動物の皮で天幕を作って自分の生活を支えながら、仕事と伝道の両立をしました。パウロが、改宗者たちにどのようにするのか教えたので、わたしたちも彼が職場伝道をしたことを知ることができます。きっと、パウロは狭い通りで同労者、顧客、問屋、店を持つ職人たちが行き来するのを見ていたことでしょう。コリントの街角で、パウロは酔っ払い、泥棒、浮浪者などに話しかけ、彼らを主に導いたのです(コリント 6:9-11)!彼らとの会話は、(特に、パウロがアクラとプリスキアと同居していた時には)彼の仕事場の上か裏であったであろう、彼の住まいにまで持ちこまれたことでしょう。パウロは、市場で人々と語り、アテネのアレオパゴスの議会で哲学者たちに講義をしました(使徒 17、18 章)。けれども彼はまず、会堂で求める人を釣るために教え、ユダヤ人の敵対心が彼を会堂から追い出すので、改宗者たち(コリントのテスなど)の家庭で集会を始めます。会堂が無いところでは、川岸で礼拝を捧げているユダヤ人を探しました。ピリピでは、そのようにして神を恐れるリディアを見つけました(使徒 16 章)。エペソでは、パウロは人々が昼寝をする時間帯に講義室を借りて、また夜には大きな個人宅で教えました(使徒の働き 19:8-9、20:20)。彼はまた、船旅中や歩いていった旅中で伝道しました(使徒 27、28 章、19:1~)。パウロは牢獄に置いても伝道し(使徒 16 章)、ネロ皇帝の皇居監獄で人々を主に導いたのです(ピリピ 1:12-15、4:21-22)。パウロは、捕らえられ、裁判にかけられたことさえ、伝道の機会としたのです(使徒 21-26 章)!けれども、ほとんどの場合パウロは、働く人たちに焦点を当てて、職場伝道の型を作りました。パウロは改宗者たちが、彼のように職場で伝道するようになり、あちこちで伝道が行われることを目標としていたからです。

② 現代の職場、学校

職場や学校で釣り伝道が必要とされているのは、わたしたちが同じ人たちと何度も顔を合わせる機会に恵まれているからです。初めから、たくさんのことを一度に言ってしまって、彼らに避けられてしまうことのないように気をつけてください。

マリア・セリアは、ブラジルのクリティバにある医学生としての一年目に、わたしのルームメイトとしてやってきたとき、こう言いました。"わたしに伝道することを期待しないで。去年、神さまについてあまりにもたくさん話したので、わたしが廊下を歩いていると、みんな教室に逃げるように入っていくってしまうのよ！"確かに、話しすぎると、かえってうまくいかないのです。わたしは、彼女にこう言いました。"じゃ、彼らには、聞かれないかぎり神さまについて話さないことにしましょう。"わたしは、彼らをただ改宗させる対象としてではなく、人格をもった人として心をこめ接し、適切な餌を使えば、彼らが神さまについて聞いてくるという確信がありました。

主に隣に住んでるカトリックの医学生たち、そして少し離れたところにある連邦医学部の学生たちが、わたしたちの狭いアパートを訪れるようになりました。時に 60 人もの人々が来たときもありました。何人かの学生たちがホルムアルデヒド（防腐剤・消毒剤）の滴る、人間の心臓、肺をテーブルの上に置いて徹夜でテスト勉強することもありました。そんなときには、コーヒーやマテ茶、クッキーなどを差し入れしました。そうこうしているうちに生徒たちは、いつでも立ち寄るようになりました。幾人かの人たちは、神さまについて質問してくるようになりました。授業で解剖用の人間の死体を扱うようになると、オーラディナは夜寝れなくなり、彼女は人は死んだ後どうなるのか、と聞いてきました。わたしたちが、一緒に座ってコリント 15 章を学び始めると、他の人たちが入ってきたので、彼女は彼らと一緒に学ばないかと声をかけました。このようにして自発的な聖書研究を必要に応じていつでも、また毎週土曜日には時間を決めてするようになりました。学びのときは、一時間以内におさまっても、その後の議論のときが数時間に渡り繰り広げられることも、しばしばでした。わたしたちは聖書研究のグループを 3 つに分けましたが、その 3 つ全部に出席する人たちがいたほどでした！マリア・セリアは人気者となり、彼女の伝道の賜物を賢く使っていました。この思慮深いアプローチは、敵対する環境ではとても重要になってきます。

③ 敵対する環境

釣り伝道は、宣教師が入ることの出来ない国々にいる、世界の 70-80%の人たちに届いて行くのに最適なのです。また、キリスト教に敵対していなくても、宣教師査証を発行していない国々もあるのです。けれども、どの国の政府でも、その国に必要な専門技術

を持った外国人技術者は歓迎します。狂信的な地元住民は、あなたを逮捕させたり、国外追放させたりするかもしれません。しかし、福音を一度も聞く機会のない人たちに語らなかつたら、あなたは、神さまになんと申し開きするのですか？

解決法：釣り伝道です！注意深く選んで伝道するのです。霊的に飢えている人を見つけ出し、その人を取り分けて話しをしてください。正真正銘の、求める人なら、あなたのことを通報したりはしません。

イエスさまは、極度に敵対している境遇で伝道したのです。まるで、イスラム教国で伝道するのと同じようなものです。ユダヤ人社会は、同じような熱狂的な唯一神を信仰する人たちの集まりで、三位一体の神を信じませんでした。イエスさまに対する敵対が高まるにつれ、彼はたとえ話を用いて、求める人を釣り始めました。群集は、興味、無関心、怒り、感傷的な同意、あざけり、当惑という様々な反応をしましたが、あとに残って質問をした人たちだけが、イエスさまのたとえ話の意味を知ることができたのです（マルコ 4：12）。イエスさまは、真珠を豚にやるようなことはしなかったのです（マタイ 7：6）。彼は、貴重な真実を踏みつけ、あざけるような敵対する群集に話さなかったのです。彼らは、臆病な求める人たちを思いとどまらせてしまったかもしれません。イエスさまは、飢え渴いている人たちを釣って命を与える、彼のたとえ話の霊的な意味をひそかに説明したのです。

似たような方策が、クウェートで音楽教師をしていたディックの伝道を実りあるものとしたかもしれません。彼は、現地の人たちと温かい交流を持っていました。彼の近所に住んでいたイスラム教徒の男性たちが、彼らの家や外での雑談に招きました。ディックは、勇気を持って、彼らにイエス・キリストについて話をしました。彼らは、ディックに新約聖書を持ってきてくれないか、とまで言いました。が、すぐに彼らはアラビア語で、言い争いを始めました。もし、ためらいがちな求める人がいたら、彼は他の人たちに圧倒されていたに違いありません。ディックは、求める人を釣り上げ、他の場所で話すべきでした。

ロイとキャロルは、敏感なイスラム教国で技術者として働いていましたが、キャロルと子供たちが肝炎にかかり、ロイも背中を怪我し、落胆しかけていました。アラブ人の雇い主も彼の仕事に満足が言っていない様子でした（彼らは、そのようにして従業員をコントロールするのです）。2人の上司はおたがいに嘘を付きあい、ロイはその板ばさみになりそうな状態でした。この夫婦は、30日の休暇をもらい、アメリカに戻り、本当にこのような状況の中に留まっているのが神さまの意志なのかを考え直したいと思いました。

彼らの上司は、反対しました。ロイが 1ヶ月いなければ、工場が崩壊してしまうと考えたからです。ロイは、始めて彼らがどんなに彼の仕事に満足しているかを知ったのです。夫婦が、休暇に立つ寸前に、上司の一人が小さなスーツケースを持って現れ、イエスさまについての本をくださいと求めたのです！ロイは、おとり捜査を恐れましたが、彼にアラビア語の新約聖書とイエスさまについての子供向けの本をあげました。この人は、心から求めていたのだと後でわかりました。この上司は、クリスチャンのラジオ放送を聞き、そしてロイが仕事場でどのように彼らと関わって、この夫婦がいろんな問題を対処してきたかを見て、福音にずっと飢え渴いていたのです。すべてがうまくいっているときは、誰だって正しいことができますが、苦しみは、私たちの証をさらに高めるのです。

テント・メーカーは、権力者の前に伝道の旗を誇らしげに振るべきではありません。もし、彼らが投獄されたら、神さまの許可なしに誰も彼らに触れることはできないということを知っておくべきです。イエスさまは、従う人たちは権力者たちに証するために、捕らえられることを予期しておきなさいと言っています(マタイ 10: 16-20)。パウロは、"神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださる"(ローマ 8: 23-28)と保証しています。

ですから、クリスチャンはいつも同じ人たちから観察されるような環境で、求める人を釣るような餌を蒔きつつ、福音を貫き通して生活しなくてはならないのです。

4. 釣り餌の成分

まず、何が餌ではないかを見ていきましょう。車に張っているバンパー・ステッカーやクリスチャン・モットーのTシャツは、証ではなく、宣伝に過ぎず、逆効果である場合が多いです。わたしが、アジアを旅行したとき、襟につけていた十字架または魚の小さなブローチが、驚くほどの人数の求める人を釣り上げました。けれども、わたしたちの住んでいるところ、職場、学校での効果的な餌は、以下の 4 つが含まれていなければいけません。

① 一貫性

第一の"餌"の構成要素は、道徳的な一貫性です。異性との関係は、非難のないものであるべきです。わたしたちの生活は、正直、誠実、明白なものであるべきです。ほとんどの文化において、人は収入がどのくらいで、家賃がいくらで、乗っている車の価値はどのくらいか、といった個人的な質問をしてきます。もし、あなたが独身であれば、なぜかを問い詰め、結婚していれば、なんで子供がいないのか、などなど立ち上がった質問をし

できます。何も、隠すことが無いほうが良いのです。隠しだてしないほうが、信頼を得るものです。

敏感な国々で働くテント・メーカーは特に、ごまかすことなく、言葉と行動が一致していなければなりません。イエス・キリストを知っている数学教師は、そのようであるべきです。仕事を隠れ蓑にしているが、本当は普通の宣教師だと考えているクリスチャンは、後々には信用を失うこととなります。恐れが質問から逃げることに伴い、あたりさわりのない言葉を用いたり、真実の半面だけを語るようになります。個々の小さなごまかしが、他のごまかしを要するようになるのです。周りの人たちは、そういうことを敏感に感じ取ります。クリスチャンの言い抜けや、矛盾に不信感を抱くのです。彼らは、自らの手によって一番恐れていたことが発覚することになる羽目になったりするのです。

聖書の中に真実の半面陳述やその他のごまかしを見逃す、などといった箇所はありません。結果は手段の言い訳にはなりません。真実と正義は、わたしたちが毎日意識して身につける、霊的な武具の大きな部分を占めています(エペソ6:10~)。この広大無辺な戦いに、欠陥をそのままにして置きたくはないでしょう?不正は、悪魔に足場を与えてしまうのです。悪魔は、わたしたちを絶え間無く嘘を言い続けるように変えることができるのです。問題は、人がわたしたちの不誠実に気づくばかりでなく、神さまの名誉を汚すことになるのです。

イエスさまは、わたしたちの伝道が、わたしたちを権威者たちの前に連れていくと言っています。(他にどのようにして彼らは福音を聞くのでしょうか?)イエスさまは、聖霊がその時に言うべき言葉を備えて下さると約束されています。真実の御霊が、わたしたちに嘘を付くように導かれるのでしょうか?あなたが危険を感じるような権威者に面しても、神さまがしようとしていることを避けて通ることはしないでください。そのようにして、神さまは教会を誰よりも迫害したタルソ出身のサウロを、私たちの愛する兄弟パウロへと変えてくださったのです。

相当な地位につき、自分たちの生活費を偽り無く稼いでいるテント・メーカーたちは、より自由に職場で福音に沿った言動を取り、常にわきおこる質問に答えることができます。テント・メーカーは普通の宣教活動とは異なるユニークなアプローチを取る、霊的なミニストリーです。パウロのアイデアに沿って、キリスト教と関係のない仕事をして自分をサポートしていても、パウロの模範や指示に従わなければ、その職場伝道はテント・メーカーの利点を剥奪されているようなものでしょう。

クリスチャン技術者は、容赦なくじろじろ見られながらのクリスチャン生活を強いられることとなります。一貫性を保つことは小さなことに見えるかもしれませんが、私たちはみな、

ストレスのもとに失敗しますが、その失敗にどのように対処していくかが大事なのです。謝ることを厭わず、私たちもまだ学んでいるのです、と言えるようにならなくてはなりません。私たちは、完璧であることを宣言するのではなく、私たちのする全てのことに、神さまを喜ばせたいと願うのです。

パウロの仕事の在り方は、改宗者たちのクリスチャン生活の模範となりました(Ⅱテサロニケ 3:8~)。彼らは、クリスチャンを見たことがなかったのです。どのようにして聖い生活をするかを言い聞かせ、教会において敬虔さをみせるだけでは十分ではなかったのです。パウロは、求める人たちと同じ、誘惑的で、偶像礼拝に満ち、不道德であるローマという不浄な場所で、聖い生活を貫きました。

パウロは、迫害によって、信仰について嘘をつかせ、妥協するように誘惑されるといった、新しいクリスチャンたちと同じ状況において、誠実、真実、聖さ、愛を貫き徹しました。パウロは、恐れによって神さまが彼の周囲の人たちになさっていることを避けて通ることはしませんでした。

パウロの時代から2000年たった今でも、多様な需要が飛び交う世の中で、真実を語り、収賄を断ち、非合法的な金銭取引を避け、上に立つ者に敬意を払い、親切にすべての人と接し、異性との関係に非難されるところがない、聖書の教えと地域の慣習に従って、キリストのように生き抜くことが大切なのです。私たちの一貫性はとても重要なのです!

②高品質の仕事

2番目の餌の構成要素は、私たちの雇用主に対する実直な仕事です。パウロは、倫理の基準がない社会において聖書的な仕事に関する倫理を教え、またその模範を見せました。雇用主との契約は、主との契約に値するのです。

ローマとイタリア半島で人口の90%、地方で70%は奴隷でした。ギリシャ・ローマ社会の基本構成単位は裕福な家族でした。その構成は、主人の親戚、雑用をする奴隷、農場で働く奴隷、職人や家族事業の経営管理をする奴隷から成っていました。また、家庭専属の教師、医者、弁護士までいました。これらの奴隷とは、いったい誰だったのでしょうか?彼らは、奴隷の子供として生まれ、そのまま主人の所有となった人や、捨て子の中から拾われた人、借金のかたに身売りした人、または田舎の人や部族の人たちでした。大多数は、戦争によって、またはそれ以外の時に連れてこられ、奴隷市場で売られた外国からの捕虜でした。ですから、これらの家庭では、多種の文化が入り混じっていました。

エペソ 6:5-8 で、パウロは奴隷に対してだけではなく、雇われ人、自由人、奴隷だった人、また小実業家、日雇い労働者に対しても、こう言っています。"奴隷たちよ。あなたがた

は、キリストに従うように、恐れおののいつつ真心から地上の主人に従いなさい。人のご機嫌取りによようなうわべだけの仕え方でなく、キリストのしもべとして、心から神のみこころを行い、人ではなく主に仕えるように、善意をもって仕えなさい。良いことを行えば、奴隷であっても自由人であっても、それぞれの報いを主から受けることをあなたがたは知っています。"(コロサイ 3:23-25、4:5-6 も参照してください。)

社会におけるクリスチャンの地位やどんな仕事をしたかに関わらず、本当の雇用主とは実際に給料を支払い、指図をする権限のある人ではなく、イエスさまなのです。品質の高い仕事をすることによって、雇用主を主に導き、たくさんの人の生活を高めることに繋がるかもしれません。パウロは、クリスチャンとなった奴隷たちを通して、彼らの主人に届いて行こうとしたのです。もし、主人がクリスチャンになれば、彼の家族、親族、奴隷たちにまで、福音が広がるのです。彼の住む村、町の仕事場が、新しい、自由な交わりの場となるのです。その家庭が教会の主な構成要素となるのです!

パウロは、非宗教的な仕事をする際の新しい見方を示してくれました。イエスさまは、私たちを観察し、私たちの仕事の質を評価していらっしゃいます。私たちは、イエスさまに仕えるように、この世の雇い主に仕えるべきです。たとえ、彼らが残酷な奴隷の主人だったとしても、です。もし、私たちが意識して、イエスさまのために仕事をするなら、それはもう、世俗の仕事ではありません。きつい仕事や退屈な仕事だとしても、神聖な働き、礼拝と変わります!

建築家のドンは、ペルシャ湾岸で伝道し、イスラム教徒のためにアラブ形式の家をデザインすることによって神さまに仕えていました。エンジニアのスタンは、東南アジアの田舎に住む人々に水を供給する働きをすることによって神さまを喜ばせていました。ティムは、トルコで外科医として働き、ノーマはポルトガルの国立交響楽団でバイオリンを弾き、ブライアンは、サウジアラビアで食料品店を営みました。キースはケニアの高校で数学を教え、ポンド夫妻はベラルーシで子供たちの先生をし、73歳のジョンソンは中国で英語を教えました。彼らはみな、同じ雇用主、イエス・キリストの下で働いたのです。

仕事をするのは、私たちが生きていく上に神さまから課せられた統治委任の一部です(創世記 1:28)。これは、私たちが神さまのイメージを反映させる面の一部であり、神さまから任された物資、能力を私たちがどのように扱ってゆくかということです。また、神さまの愛を人々に伝える管となることでもあります。神さまが"世を愛された"ということは、いたるところにいる反逆者たちでさえも愛しておられるということです。神さまは、ご自身に従う人たちに、彼らの生活をよりよいものとするを願っておられるのです。神さまは、偶像礼拝に満ちた異教徒の国であるバビロンに追放された、ご自身の民に、"わたしがあなたがたを引いていったその町の繁栄を求め、そのために主に祈れ。その

繁栄は、あなたがたの繁栄になるのだから。"(エゼキヤ 29:7)と語られました。ですから、私たちの課せられた統治委任と宣教命令(マタイ 28: 18-20)を統合させなければなりません。神さまのためになされる毎日の仕事は霊的なミニストリーです。

けれども、私たちの仕事による証は、決して私たちの性格や言葉を通してなされる証に取って代わることはありません。ジェット機に翼が両脇に必要なように、私たちの伝道には、言葉による証、そして言葉の伴わない証が必要なのです。前述のテント・メーカーたちはみな、仕事においても、また休みの時でも福音を分かち合いました。彼らの質の高い仕事ぶりが、言葉を通して証する道を開き、その言葉への信用を勝ち取ったのです。

③ 関係を大切にす

餌の3番目の構成要素は、クリスチャンが職場や学校でどのように人と関わっているか、ということです。クリスチャンは、周りの人すべてに対し、感じ良く、慰め、励まし、できる限りの実際的な手助けを与えるべきです。同僚がより良い仕事をする手伝いをし、引越しを手伝い、病人には食事を持っていき、買い物を代行し、子供たちの面倒を見、テスト勉強を手伝い、仕事や住む場所を探してあげるなど、です。また、近所の人や、同僚を食事に招待するのも良いでしょう。

法学部4年生のカルロス・ガルシアがペルーのリマで、わたしの家で開かれていた聖書研究にやってきました。その次の土曜日は、彼の誕生日でしたので、ケーキを焼きました。彼がその日は、家族と共に過ごすだろうと、考え付くべきでした。それで、わたしは、その次の土曜日にも彼の誕生日を遅れて祝うためにケーキを焼きました。彼が、主に出会い、牧師になった後、彼は会衆にこのことを分かち合いました。誰も彼の誕生日のためにケーキを焼いてくれた人はずっといなかったもので、わたしが彼のために2度もケーキを焼いたのがよほどうれしかったようです。最近、この敬虔な指導者である彼は、ペルーの副大統領に当選しました。

パウロの改宗者たちにとって、手厚いもてなしと、寛容は生活の一部であり、証でありました(ガラテヤ 6:9-10、1テモテ 3:2)。パウロは、1テサロニケ 2:8にこう書いています。"わたしたちは、ただ神の福音だけでなく、私たち自身のいのちまでも、あなたがたに与えたいと思ったのです。なぜなら、あなたがたは私たちの愛する者となったからです。"

アメリカ人は他国人から、友好的だけれどもいざという時にはそうではないと、みなされがちです。ほとんどの文化において、友達と知り合いには大きな違いがあります。人は、頼み事をすることによって、友情を試しますが、あなたが頼み事をするをも期待

しているのです。一度にたくさんの"本当の友達"を持つことは不可能です。何人かの求める人を見つけ、彼らと彼らの家族に集中してください。

ボブとベティが中国で英語を教えていた時、政府は外国人教職員が教室以外で生徒と関わることを好ましく思っていないでした。けれども、この夫婦は生徒たちを愛し、彼らの生活がどんなに退屈なものであるかを知っていました。それで、一回に数人ずつ、生徒たちを彼らの快適なアパートへ食事に招待する方法を見つけました。彼らは、"アメリカ人の家に招待されたとき、どのように振舞うべきか"という授業を考案したのです。生徒たちは、コーヒーテーブル(ソファの前に置く低いテーブル)の上に乗っている数冊のキリスト教関連の本を眺め、壁にかかっている聖書の箇所を指さして目を留めました。あるときには、若いエンジニアが、"神さまについてもっと知りたいんですが、そういう本はありますか?"と聞いてきました。

別の町では、若い中国人女性が、彼女の英語教師たちが、絶望的な孤児院のひとつにいる子供たちのために犠牲的な奉仕のために彼らの自由時間を捧げていることに驚きの色を隠しきれませんでした。(人々は日常的に女の赤ちゃんを孤児院の前に捨てていたのです。)彼女は、孤児を世話するのは政府の仕事のはずだと抗議しました。捨てられた赤ん坊の孤児たちに愛をもって世話をしていたのは、同国人ではなく、外国人たちであったことに、彼女は恥ずかしくなりました。彼女はこう言っています。"すぐに、わたしは彼らがクリスチャンではないかと思いはじめ、尋ねると、そうです、と言う答えが返ってきました。"

クリスチャン団体であれば、さらに大きな規模で愛を示すことができます。IFESの生徒たちのグループは、他の生徒たちへの奉仕として、校内にあったきたないトイレの壁のペンキ塗りをしました。数年前、共産主義国だったハンガリーで迫害下にあった教会が日曜礼拝を中止して、洪水に見舞われた近所の被害をかたづけの手伝いをしました。彼らの働きが礼拝となったのです。

いつでも、可能なとき、私たちの人への手助けは、相互的なものであり、温情主義的であるべきではありません。イエメンで技術者をしているクリアは、今彼女の子供の世話をし、イスラム教徒である近所の人と友達になるため、家にいます。彼女に最初の子供が生まれるまで、近所の女性たちは彼女に友好的ではありませんでしたが、母親が遠く離れて住む、この若い母親であるクリアを助けにやってくるようになったのです。その後クリアは、地元の女性たちと同じように髪に覆いをして、彼女たちと市場に出かけられるようになったのです。クリアは、彼女たちのミシンの調整をしてやり、彼女たちはクリアに、長くてカラフルなガウンの縫い方を教えてくれました。キブ・アンド・テイクの関係は、一方的な関係によって生じるいぶかりを和らげてくれるのです。

すべての会話において、私たちは接客する、または接待されるという両方の役割を果たさなくてはなりません。恥ずかしがりやの人は大抵、受身である接客される役です。私たちは、接客することも学ばなくてはならないのです。他の人の居心地を進んで良くさせ、相手の信頼を勝ち取り、彼らが打ち明けて話ができるようにしてあげてください。個人的な経験を話すことによって、弱い立場に立ってください。接客することにより、自分自身から目がそれて、あなたの内気さが変えられて、他の人を愛するように解放されます。

私たちは、独断的、妥協的ではなく、魅力的に福音を生き抜くべきです。最も難しい状況下にあったとしても、一貫性を失わず、質の高い仕事と愛のある関係を保ちつつ、主について語る機会を待つのです。

④言葉による証

もし、あなたが神さまについて語らないならば、模範的な生活は人々の心を混乱させるだけでしょう。ですから、非宗教的な会話の中に何気なく自然に、そして自信をもって神さまに関する適切なコメントを織り込んでください。やり過ぎず、説教的にならないように注意してください。機会を逃がさないようにも気を付けてください。非宗教的な話題についての、知識ある楽しい会話は、あなたが時々発する宗教的なコメントを受け入れやすくしてくれるでしょう。

END

‘ 職場での伝道 ’ は、Global Opportunities という宣教会から研究されたもので、ゴスペルハウス翻訳部で翻訳したものです。

ゴスペルハウスホームページ: <http://tolove.jp/jp/>

テントメーカー養成神学校: <http://tolove.jp/school/>

お問い合わせ: tolove@tolove.jp

Copyright was obtained from Global Opportunities.

Global Opportunities: <http://www.globalopps.org/>